

天売島の海鳥保護を目的としたノラネコ対策の実施
～天売猫のシンポジウム&譲渡会～

「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会

北海道

【協議会の活動目的】

天売島は、北海道苫前郡羽幌町の西方沖約28kmに所在する周囲約12km、人口約350人の島で、絶滅危惧種のウミガラスやケイマフリなどを含む8種類約100万羽の海鳥の繁殖地であり、「人と海鳥が共生する島」として知られており、天売島の海鳥繁殖地は天然記念物や国定公園、鳥獣保護区に指定されている。

しかし、天売島で繁殖する海鳥のうち約8,000羽いたウミガラスが30羽前後に激減したほか、約3万羽いたウミネコが1,000羽以下になるなど、いくつかの海鳥ではその生息数が減少している。

その要因の一つとして考えられているのが島で増え過ぎてしまったノラネコである。近年、天売島ではノラネコが増加し200匹～300匹のノラネコが島内に生息しており、海鳥のヒナや卵の捕食・繁殖地の攪乱により、天売島の生態系に影響を及ぼしている。

そのため、環境省や羽幌町、北海道、北海道獣医師会、動物愛護NPOなどの関係機関が連携して「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会を発足し、天売島にいるノラネコをなくすることを目指して殺処分をせずに、猫を保護して馴化させてから里親を探す活動を行っている。

【活動の経緯と今後の展望】

平成26年度年秋から天売島の海鳥繁殖地に生息するノラネコの捕獲を開始し、捕獲したネコは道内の動物病院において、不妊去勢、マイクロチップの埋め込みなどの医療行為を行った後、北海道海鳥センターや動物病院、動物愛護NPOなどで人に慣れるための馴化作業を行っており馴化が進んだネコから随時、当協議会や動物愛護NPOなどが主催する譲渡会において、新しい飼い主を探している。

また、平成26年度年冬にノラネコの不妊去勢手術を行い、これ以上天売島のノラネコが増加しないよう取り組みを行っているが、ノラネコ全てに不妊去勢を施すには至っていない。

当事業は平成26年度から平成28年度の3年間で島内のノラネコをすべて島外へ搬出し全てのノラネコの飼主探しを完了する予定で業務を行っている。そのため、市街地区のノラネコの捕獲を行うためにはノラネコの出口対策が急務であり「天売猫の預かりボランティア体制」を構築することで対応を行っている。具体的にはノラネコの馴化を自宅で行えるボランティアを募り、そのボランティアを管理・フォローする体制を整えることによりノラネコを収容するシェルターの負担を減らすことができるものである。この体制を活用して平成27年度より市街地区のノラネコ捕獲を開始した。

また、馴化を行った猫の譲渡促進のため道内各地で「天売猫の譲渡会」を開催して随時譲渡を進めており、取組開始から平成28年3月までに、100匹以上のノラネコを島外へ搬出し80匹以上の譲渡進めることが出来た。当初200匹以上生息していると思われていた天売島内のノラネコの数は厳しい環境下での自然淘汰などもあり50匹以下まで減少したとみられる。

【預かりボランティアの体制整備】

預かりボランティアの管理・サポート体制を整えることにより、円滑な管理運営をすることができ、ボランティアが安心してボランティア活動を開始できる状況を作ることを目的として体制整備をした。

(管理・サポート体制の内容)

- ・ スタートキットの貸出 (ゲージ、食器類)
- ・ 餌・猫砂の支給 (最初の1ヵ月分)
- ・ 天売猫の飼育についての悩み相談
- ・ 天売猫の医療行為
- ・ ボランティア保険加入
- ・ 長期不在時の猫の預かり体制
- ・ 譲渡会参加や通院時の猫の移動

《一般市民ボランティアとの協働》

- ・ 道内各地で行われた動物愛護フェスなどで天売猫の預かりボランティアの説明会を実施。また、募集リーフレットを作成しPRを実施
- ・ 今年度56名のボランティアが登録 (海鳥センターでの飼育ボランティア含む) 順次天売猫預かりボランティアをスタートしている。
- ・ 預かりボランティアのサポートを協議会で実施
医療行為 (北海道獣医師会)、猫の搬送、悩み相談など (動物愛護NPO)



○ 馴化施設での馴化ボランティア



○ 各家庭での預かりボランティア

《ホームセンターとの協働取組》

- ・天売猫の譲渡を促進するため、全道各地に店舗を構えるホームセンターと協働取組で譲渡会を開催。公共施設等では生体を扱える会場が少なく、譲渡会を開催することにより譲渡の機会の創出ができた。ホームセンターとしてもCSR、集客増の面でメリットがある。
- ・ジョイフルエーカー屯田店とDCMホームマック留萌店で1回ずつ開催、話題性から新聞・テレビ等に取り上げられ多くの集客があった。



《旭山動物園との協働取組》

- ・全国的に有名な旭山動物園で馴化してもらうことで、馴化だけでなく取組の啓発につながる。旭山動物園にとっても同取組を展示の一環として活用することでお互いのメリットとなっている。
- ・6月から天売猫2匹の馴化を開始飼育員ガイドウォークのネタとしても活用
- ・3月6日に旭山動物園で譲渡会を開催



○旭山動物園での展示



○引渡し時の取材

《酪農学園大学との協働取組》

- ・天売猫（ノラネコ）の馴化過程の研究（動物行動学）を目的とする酪農学園大学と協働取組を実施。希望する学生が天売猫を預かり、馴化の過程を研究している。
- ・学生を対象に、天売猫の取組概要や飼育の方法などの説明会を実施。これを受けて関心を持った学生が中心となり、馴化を行う学生を募集。
- ・現在までに10名の学生ボランティアが登録し、6匹の天売猫を馴化
- ・1月24日に酪農学園大学と共催で譲渡会を開催



【本助成金の活用計画と展望】

天売島のノラネコの大半は市街地区に生息しているが、市街地で生息しているノラネコも海鳥の繁殖地を行き来していること、天売島の住民生活への影響、天売島の厳しい環境（特に厳冬期）はノラネコにとっても厳しい生育環境であることなどから、天売島に生息する全てのノラネコの島外搬出を行い、譲渡先を見つけることが本取組の目標である。

天売島内の全ての野良猫を島外に搬出～馴化～譲渡するための対策として、道内の動物愛護団体や一般市民ボランティア等との協働で「預かりボランティア体制」の構築と譲渡の機会を促進するための活動を行う。

平成 27 年度は預かりボランティアを行う協力者の拡大のための啓発活動（説明会やシンポジウムの実施、リーフレットの作成など）を行いながら野良猫の捕獲を進め、預かりボランティアの管理とフォロー体制の構築、天売猫の定期的な譲渡会の開催などを関係機関と連携しながら行う。

本助成金を活用した活動として、譲渡の促進や取組の推進のためのシンポジウムを開催し、札幌市近郊で多くの方に取組の普及啓発をするとともに譲渡の促進を図る。

【本助成金を活用した事業成果報告】

○事業名

「天売猫のシンポジウム&譲渡会」

○日時

平成28年2月21日（日） 11:00～16:00

○場所

札幌市中央区北1条西19丁目2-7

学校法人高橋学園 エス・ワン動物専門学校

○事業内容

「天売猫の譲渡会など」11:00～16:00

天売島で保護して馴化をした天売猫のほか、動物愛護団体に保護している猫の譲渡会も併せて行った。

「天売猫のシンポジウム」13:00～15:00

人と野生動物との関わりについて、2匹の天売猫の馴化を行っている旭山動物園の坂東園長による講演会のほか、事例発表と海鳥関係者、動物愛護関係者、天売島民、天売猫の預かりボランティア、協議会長でパネルディスカッションを行った。

○事業結果

内容	結果	備考
来場者数	238人	
譲渡頭数	14匹	愛護団体の保護猫含む
アンケート回収枚数	63枚	
アンケート結果	別紙のとおり	

天売猫のシンポジウム

開催日時／平成28年2月21日（日） 13:00～15:00

開催場所／エス・ワン動物専門学校（札幌市中央区北1条西19丁目2-7）

主催／「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会

協力／学校法人 高橋学園 エス・ワン動物専門学校

環境省北海道環境パートナーシップオフィス

後援／札幌市

特別協賛／タカラ・ハーモニストファンド（宝酒造株式会社）

（シンポジウム次第）

（司会） 藤崎未来氏（フリーアナウンサー）

13:00 開会挨拶 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会会長 高橋徹氏

13:05 基調講演 『共に生きる 未来のために』 旭山動物園 園長 坂東元氏

13:35 天売猫の取り組み紹介

「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会 竹中康進氏

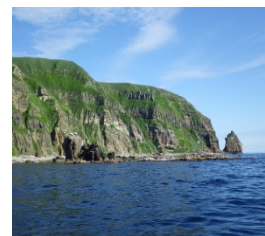
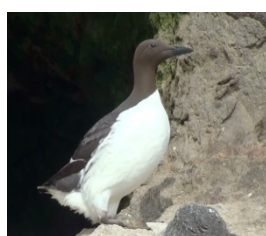
13:50 休憩

14:00 パネルディスカッション

（パネリスト）

- ・綿貫 豊 氏（北海道大学水産科学研究院 教授）
 - ・畠山 雅子氏（（公社）日本愛玩動物協会顧問）
 - ・齊藤 暢氏（（一社）天売島おらが島活性化会議 代表理事）
 - ・中嶋 真耶氏（天売猫預かりボランティア・大学生）
 - ・高橋 徹氏（「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会 会長）
- （コーディネーター）
- ・溝淵 清彦氏（環境省北海道環境パートナーシップオフィス チーフ）

15:00 終了・受付にてアンケート回収・撤収



○事例紹介



○パネルディスカッションの様子



○シンポジウムの様子



○旭山動物園 坂東園長による講演会



○羽幌町の特産品販売



○シンポジウム高橋会長のあいさつ



○天売猫の紹介



○4階シンポジウム会場パネル展の様子



○譲渡会場



○譲渡会場の様子



○会場（学校法人高橋学園 エス・ワン動物専門学校）

